

令和4年度（2022年度）青森県日本海沖合のハタハタ分布調査結果について

（地独）青森県産業技術センター
水産総合研究所

2022年5月～6月の各月に青森県日本海の十三沖、高山沖、出来島沖の水深100m～300mに設定した各調査点で、試験船青鵬丸（65トン）によりオッタートロール海底曳を行い、ハタハタの分布密度を調査しましたので、その結果をお知らせします。

0歳魚は6月に高山沖水深300mにおいてわずかに分布が見られましたが、分布密度算出の対象としている水深100mにおいては分布が見られなかったため、平均分布密度は0個体/1,000㎡となり、2011年級群以降では最も低い値となりました。

1歳魚は5月～6月を通じて分布が見られ、平均分布密度は0.2個体/1,000㎡で、2011年級群以降では2番目に低い値でした。

今後は、今回の調査結果と、昨冬の本県沿岸における年齢別の漁獲状況を併せて今冬の来遊資源の多寡や年齢構成を予測し、予測結果をホームページでお知らせする予定です。

（資源管理部 松谷紀明）

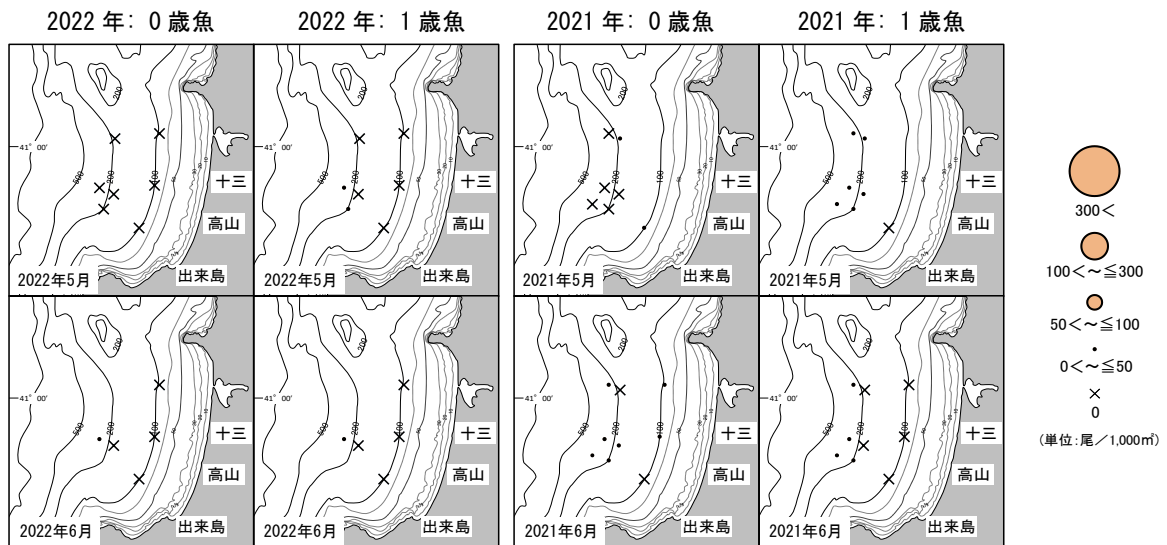


図1. オッタートロール海底曳によるハタハタ分布密度（2021年、2022年）

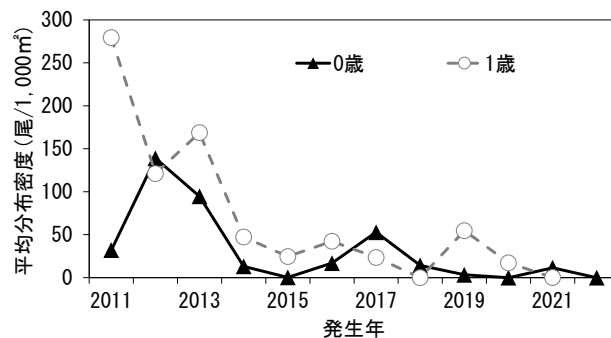


図2. 青森県沖合における年級群別のハタハタ平均分布密度

※ 0歳魚は5月～6月の水深100m 3地点の調査結果により算出

1歳魚は5月の水深200m 3地点の調査結果より算出